

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)からの 北海道の市民活動の再開に向けた基本指針 Ver.1.0

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの間、感染拡大防止に対応した市民活動を行う必要があります。そのため私たちは、市民活動の再開に向けた基本指針を作成し、主な活動場面にあわせたポイントを整理しました。皆さんが、安心・安全に活動を行えるよう、また、これまで取り組んできた市民活動がさらに発展する機会ともなるよう、ぜひご利用ください。

〔市民活動の再開に向けた10のポイント〕

●普段の活動から取り組もう●

- ①健康管理を徹底し、平熱より1度以上高い発熱や咳など、風邪の症状がある場合には自宅で休もう。
- ②マスクの着用や手指の消毒を徹底しよう。**※熱中症に注意!**
- ③屋内で活動する場合は、1時間ごとに2回以上換気をしよう。
- ④不特定の方が触るものは、定期的に消毒・洗浄しよう。
- ⑤ソーシャルディスタンスを保ち、会場での食事は控えよう。
- ⑥活動の参加者をきちんと記録しておこう。

●これをきっかけに活動を見直そう●

- ⑦感染拡大防止や災害対策の方針をメンバーで確認し、その取り組みを共有・発信しよう。
- ⑧感染拡大や自然災害に備えて、団体の備蓄を見直そう。
- ⑨活動や運営にオンライン技術が導入・活用できないか検討しよう。

●イベントを実施するときに確認しよう●

- ⑩イベントの特性にあった、感染拡大防止策を取り入れよう。



◆参加者を募集するイベントでは...

- イベントの開催時期・時間については、オンラインでの開催や複数回に分けた開催の可能性など感染リスクを低減できるように十分検討する。
- イベントの会場は通常定員の50%程度の収容となることを想定して検討を。
- ソーシャルディスタンスを確保できるイベントになっているか、入場開始を早める、整理退場を行うなど開始時・終了時の人の流れを確認する。
- 事前申込制などにより、参加者の氏名・連絡先を把握する。
- イベント参加者の募集に合わせ、感染拡大防止への協力を呼び掛ける。
- 会場内で急な発熱や咳などの症状が見られる参加者がいる場合に速やかな連絡・救急の対応が可能であるよう、緊急の連絡先の確認とともに十分な数のスタッフを確保するなど、余裕を持った会場運営を心がける。
- ボランティアスタッフの保険をかける。
- イベント前にスタッフ全員で、感染拡大防止の方法について共有・確認する。
- 受付で参加者の健康チェックを行い、受付や会場内にアルコール消毒液を用意する。

◆例えばこんな市民活動では...

(1) 屋外での清掃活動

- ソーシャルディスタンスを確保できるか、集合場所の広さや参加者の動きなどを確認する。
- 軍手や火ばさみを使い、直接素手で拾わないように配慮する。
- マスクやティッシュペーパーなど、衛生面に心配のあるゴミの処理方法をあらかじめ決めて、参加者へ周知しておく。

(2) 家庭訪問を伴う活動

- 訪問先と事前に連絡をとり、計画的に訪問を行う。
- 訪問者は健康管理やマスク着用など十分な感染予防を実施して行動する。
- 長時間の滞在にならないよう、配慮する。

(3) 被災地支援など

- 被災地の行政機関・災害VCがボランティアの居住地域を限定している場合があるので、事前に確認して被災地のニーズを最優先とした活動を心がける。

※集合時間や解散時間が通勤・通学のピーク時に重ならないように気を付けましょう。

◎北海道庁新型コロナウイルス対策Webページ

感染症の最新情報を掲載しているサイトです。状況判断の材料としてご利用ください。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tkk/singatakoronahaien.htm>

◎NPO(市民活動団体)のための新型コロナウイルス対応お役立ちサイト

<https://stopcovid19-for-npo.jp/>

市民活動のことでお困りごとがありましたら、ぜひご相談ください。

北海道内中間支援組織「コロナアクション」

(幹事団体：NPO法人北海道NPOサポートセンター)

TEL 011-200-0973 メール info@hnposc.net

(コロナアクション参加団体)

NPO法人旭川NPOサポートセンター、NPO法人北見NPOサポートセンター

NPO法人NPOサポートはこだて、NPO法人北海道市民環境ネットワーク
ひがし北海道市民防災サポート、NPO法人室蘭NPO支援センター(順不同)

このお知らせは2020年6月25日現在の情報をもとにしています。